

会津美里町高田地域まちなか賑わい創出基本計画(案)に関するパブリックコメントの結果について

意見提出期間：令和7年3月10日（月）から令和7年4月9日（水）

意見提出件数：8件

番号	ページ	意見等の概要	意見等に対する町の回答	修正内容
1	9	<p>第2章 高田地域の現状</p> <p>6. 地域資源（歴史と生活文化等）</p> <p>①記述として、「由緒ある神社仏閣」だけではなく、歴史をさかのぼれば旧家・豪商や文学資源などの掘り起しによって新たな歴史文化に光が当たることによって、民俗文化も含めて地域資源たりうると考えます。</p> <p>それらを「表4」に加えて、回遊性と遊覧に資することを考えられないでしょうか。</p>	<p>民俗文化が地域資源になりうるという考え方について、旧家や豪商、文化資源の明記はありませんが、表4において、民俗文化の視点で「天海大僧正と仏教信仰」「六歳市」に包含しています。</p>	修正なし
2	9	<p>②「天海大僧正」について、幼少期から勉学者であり天台宗中興の名僧であることなど、崇敬の念を抱いて「足跡の学びと交流」に資することを考えられないでしょうか。又、JA高田支店地が生誕地・舟木家跡と言われていることから明示をして、龍興寺までの動線を「勉学の道」としてや石像を含む顕彰記念館(提案)を学習施設としても活かしたら、必然的に町内外から老若男女の交流創出にも資するでしょう。真に一石三鳥以上になり得ると考えられないでしょうか。</p>	<p>協議会の委員やワークショップにおいても、全国的に知名度がまだまだ低い点などを考慮し、記念館の建設は、費用対効果の面からも時期早々だとする意見が多数を占めましたが、21頁にあらゆる可能性を視野にいった実証実験を展開し、活用方法の検討をしていくことを明記しています。</p>	修正なし
3	9	<p>③「六歳市」について、歴史を紐解くと興味深い取り組みをしてきたようです。現在は確かに正月の初市一日だけの開催として残っていますが、「そもそも」と「その来し方」を活かして今様の取り組みを創出していけるのではと考えます。</p>	<p>「六歳市」は、高田地域の市街地の形成に大きく寄与していることや起源と活かし方について明記しています。</p>	修正なし
4	15	<p>第4章 目指す姿と賑わいづくりの方向性</p> <p>2. 数値目標</p> <p>①指標「イベント開催回数」について、具体的な内容を想定してでも載せられないか。また、大規模イベン</p>	<p>回数について、意欲的な回数の上げてもよいのではないかとのご意見ですが、協議の中で達成可能な目標値を設定したところで</p>	修正なし

		トでなくとも良いと考える。仕掛け回数についてももう少し意欲的な数字を挙げてもよいのではないか。		
5	15	②歩行者通行量の積算根拠について少なからず疑問があります。2030年には伊佐須美神社本殿の再建が予定されていることも踏まえられているのか。また、イベント回数からしての通行量とは理解しがたく、説明を要するのではないのでしょうか。	<p>2030年の伊佐須美神社本殿再建に係る誘客への期待を反映した目標値です。</p> <p>イベント開催時の通行量を、1年間の365日で割った数字になります。令和6年においては、6,000人を365日で割って、16人/日としています。</p> <p>その数字を根拠に、10年後に達成可能な数値として9,000人を目指したところではありますが、令和11年と令和16年の数字に誤りがありましたので修正いたします。</p>	表6の数値目標、縦軸、歩行者通行量、美里蔵周辺における歩行者通行量の令和11年を「24人/日」から「20人/日」に、令和16年を「32人/日」から「24人/日」に修正いたします。
6	17	<p>第5章 賑わいづくりの方針</p> <p>1. エリア別の方針</p> <p>①記述において、「3つのエリア別の方針を示し、一体的な整備をします。」の「一体的な整備」とは、どういうことか分かりやすい説明があればと思います。実施スケジュールにおいて、実施組織を設置できたならば分科会方式を活用しつつ、3エリア同時進行的に取り組んでいけるのではないのでしょうか。そういう意味での「一体的な整備」なら理解できます。</p>	<p>3つのエリア同時進行は、現実的に困難でありますので、機能が重複することなく、3つのエリアごとの強みを活かした一体的な整備を指しています。</p> <p>実施組織であるエリアプラットフォームが設立されましたので、実現可能な部分から順次進めていきます。</p>	修正なし
7	21	②「Ⅲ. 旧町公民館跡地周辺他」の利活用が全体最適化のカギになるのではないかと考えると、最優先の検討課題とも言えます。整備エリア近隣の空き家・空き地等を交換分合的に拡張して有効活用すること、金融機関との駐車場一体活用を図ることなど、まちなか活性化の拠点にした先進事例があります。この機に検討できる又と無い機会であると考えます。又、ここに目玉・核となるで	<p>町民アンケートやワークショップにおいても、優先すべきエリアは、伊佐須美神社周辺という意見が一番多かったところです。</p> <p>旧会津美里町公民館跡地は、駐車場や複合施設としての活用を望む声もありましたが、人口減少化が見込まれることから、施設整備に対する疑問を呈する意見が多くを占めました。</p> <p>このため、まずはトイレや駐車</p>	修正なし

		<p>あろう天海大僧正の顕彰記念館(提案)が在って、そこに複合化された魅力あるコミュニティ施設を整備するとしたら、基本計画(案)の目的に合致した取り組みを十分に取り込んでいけると考えられませんか。</p>	<p>場を整備し、トレーラーハウスなどの仮設建物を活用した、実証実験を積み重ねていくことで、最終的な活用方法を検討することを21頁に記載しています。</p>	
8	31	<p>第8章 計画の実現化に向けて</p> <p>1. 官民連携による実行体制の構築</p> <p>(5) 行政との関係性</p> <p>基本計画(案)の中に散見される「連携・支援・寄り添う」については、従来の行政姿勢としてしか思われず少々違和感を覚えます。この基本計画(案)においては「将来に向けたまちづくりの壮大なビジョンづくりに向かう」と考えると、先進研修事例にも明記されていた「民間と行政が一体となって」は覚悟ある重要な心構えだと考えます。しっかりと書き込むことはできないでしょうか。</p>	<p>まちづくりの主役であり、主体的な役割は、住民にあると考えます。住民が主体となって、自分たちの住んでいる地域の将来を考え、能動的に動くことが望ましく、継続性に繋がると考えております。</p> <p>その意味で、当然行政は一体となって取り組んでいきますが、あくまで主役は住民であると考えております。</p>	修正なし